

federazione Italiana Sport Paralimpici per Ipovedenti e Ciechi (FISPIC)  
I ragazzi della nazionale di judo

MOTTO Podcast : <https://mottopodcast.org>  
<https://mottopodcast.org/2021/04/08/intervista-dal-raduno/>  
インタビュアー : Roberto Lachin (ロベルト・ラキン)

R: (日本語で) 柔道を愛する皆さんこんにちは、ロベルト・ラキンです！MOTTO Podcast にようこと！

(ここからイタリア語) 皆さんこんにちは、そしてこんばんは、ロベルト・ラキンです。今日も MOTTO Podcast はスペシャルエディション、3月 12 ~ 14 日にローマで開催されたイタリア視覚障害パラリンピックスポーツ連盟 (FISPIC) 全国柔道大会での録音です。許可をいただいた連盟に感謝いたします。私もこの大会にアスリートとして参加していて、チームの仲間たちにインタビューしました。様々な年齢のアスリートたちは、皆それぞれ柔道に情熱、スポーツの世界への探求心を持っています。

彼ら一人一人へのミニインタビューを聞いてリスナーの皆さん、スポーツへのできたら私達の柔道でも他のスポーツでもを行なうきっかけをつかんでください。

だから無駄話は禁止、私達はスポーツとしてではなく、私達視覚障害者に与える感動としての柔道についてお話しします。

ところでいつものように日本の文化について、日本のスポーツである柔道についてお話をします。

皆さんは審判がどのように柔道の試合を始めるか知っていますか？

(日本語で) はじめ！

R: 私達はガブリエーレ・スコルソリーニとファビオ・セラフィーニの部屋にいます。はじめにファビオにインタビューしましょう。こんにちはファビオ！

F: こんにちは、調子はどう？

R: 元気だよ、ありがとう。合宿はどう？

F: いいですね、長い休みの後の最初の合宿、継続してやらないといけない柔道をができないってそろそろ 1 年、もっと悪いと思っていました。

R: あなたについて少し話して、体重のカテゴリーと科・・・。

F: ボローニャに住んでいて人事の分野でも仕事をしています。高いレベルで競技したいので、それで僕は代表選手なんです。

カテゴリーは 81 kg 以下級、要するに少し重いんだ。

R: そんなことないよ、そんな風に言わないで！

F: 毎回ぎりぎりだから。僕の髪はすごく長いので先生は切りたがるけど、僕は切りたくないんだ。

R: 髪を伸ばしているのは日本と関係あるんだよね。

F: そう、昔日本でサムライは長く独特な髪型をしていて、僕も頭の上をそって長くして、昔日本で長い髪は自由と男らしい力のシンボルだったから。

R: 君はすっごく男らしいよ。 笑

F: (笑)

R: 後ろでガブリエーレが静かに笑ってる声がするけど、彼には後でインタビューします。

ところで柔道をどうやって知ったの？

F: 小さなころから柔道は知ってました。スポーツ全般大好きで、映画やアニメ・マンガで

見た武道に夢中になりました。それで空手を始めて、そこからボクシング・グランプリングを経て、先に日本の伝統の柔道に行った人たち、同じ分野だから僕も柔道について聞いて、オリンピックで競技したかったんですよね。それでパラ柔道に近づきました。

R:ところで確かに以前は見えていたけれど、失明して今は全盲なんだよね。

F:そう、16歳まで弱視で、それで16歳からは全盲です。結局電球がきれちゃった。

R:親愛なるリスナーの皆さん、彼はバイタリティとスポーツマンシップの素晴らしい模範です。ファビオは屈しなかったどころか、満足しているように言えます。そしてなんとFISPICで柔道のナショナルチームに到達したのです。おめでとうファビオ！

一番思い出に残る競技会や試合は？

F:タイトルを取った2019年のイタリア選手権は間違いなく重要な試合です。特に良かった試合、いや試合以上も知れないけれど、東京の講堂間で「乱取り」稽古をしたことです。

R:そうそう、リスナーの皆さん、講道館は柔道のメッカで柔道誕生の地、嘉納治五郎がこの道を創設した場所です。実際は正確にその場所ではなくて、そこは独立した区画だったので、私が思うに数か月後に隣のブロックに移転したのだと思います。

(←ここは実際の講道館の所在地の変遷と異なります。)

私の記憶では、ファビオは覚えているかな、そこの5階に視覚障害者が練習できる畠があつたんだよね。

F:そうです、5階に視覚障害者が利用できる畠があって、僕は盲ろう者のアスリートをトレーニングしていた柴山先生と行動しました。

R:格闘技のスポーツをすることに躊躇する視覚障害者、特に若者に何か話してもらえますか。

F:間違いなく柔道は精神的・道徳的・倫理的な成長と身体的成长の両方にとって重要なスポーツです。なぜなら柔道は畠の那珂だけでなく、畠の外でも人を鍛えます。畠の外でも対応するように教えます。「葉隠れ」も、7度倒れても8度立ち上がりと言っています。

R:「葉隠れ」って何？5秒で答えて！

F:侍の秘伝

R:書いたのは誰！？

F:あっ～～～、つねとも・・・R:つねとも…？つねともは合ってるよね。

R:うん！

F:山本常朝だ！！

R:ブラー！時代は？

F:う～～～～、1700・・・何年？とにかく18世紀！

R:すごいすごい！笑

R:リスナーの皆さん、今度はガブリエーレ・スコルソリーニのベッドの報にまわってきました。我らの友人スコルソリーニはMOTTO Podcast 第2回の出演者で、エベレストに登ったのに加え柔道をやっています。

G:こんばんは皆さん、また皆さんに僕の経験をお話しできて嬉しいです。僕はすでに大会は初めてではないけれど、ナショナルチームに加わったのは最近です。だから柔道の技術の習得は、まだ不安です。たくさんの素晴らしいことを学んでいてそれは尽きることがなくて、皆にとって価値があると思うんだ。

。毎日新しいことを学んでいて、僕はそれが好きだし、それを必要としている人たちに放送するのはいいものですね。

R:今度の大会で、私達はお互いにニックネームをつけてるんだけど、ガブリエーレのニックネームをバラしちゃいます。ファビオ、特別だよね。

F:長特別！笑

R:ラジオくんって呼ばれてます！まさに彼の生まれながらのおしゃべりの才能から、そうだよね。

G:残念ながらそうなんだ。

R:残念って!! 笑

G:残念ながら、僕はおしゃべりって名前をもらったけど。日本語で柔道は「柔らかさ」って意味で、僕はもう一度確かにそうと確かめられた。だって完全に体調が崩れていると思っていたけれど、結果はそれほど悲惨じゃなかったから、本当によかった。ロベルト、僕は第二回の MOTTO Podcast で何て言った？

R:少なくとも今までの試合で、ずっと心に残る物は何かと君は言うね。

G:僕が FISPIC のレベルで参加したイタリア選手権、国立スポーツ教育センターで、僕が一番嬉しかったのは健常者に勝ったこと。全然予想もしていなかつたけれど。例え試合の場で僕は全力を出して、健常者にとってそれはさほどの挑戦ではなくても、確かに自分がそのレベルに到達したって言えるし、僕は自分の中に可能性を見つけられたんだ。

R:スポーツをすることに怖さを感じている見えない若者たちに、何かアドバイスはありますか？

G:時々僕たちはいろいろな障害物に困らされるけど、スポーツ例えば柔道は、あなたが克服しなくてはならないことにとても役立ちます。実用的な例をあげると、柔道では身を守るか闘うかだけでなく、転ぶことも学びます。それで歩道に沿って歩いていて何か障害物につまずいた時転び方を知っているので、打撲せずにかすり傷程度で済むんです。けがをするにしても軽く済みます。視覚障害者にはコンタクトスポーツは向いています。家にいて iPhone で時間をつぶしてばかりいる人のためのはけ口でもあります。それは悪くはないけど、体を使うのも、健康にはいいですよ。

R:30秒で答えてって。笑

G:リスナーの皆さん、すいません。笑

R:いいよいよ、だって皆さん、ローマに来る前日の夜ガブリエーレの家に泊ったんだけど、素晴らしい経験をしました。ボローニャの中心地から二人の視覚障害者が一緒にサン・ルーカの丘の上の聖ルカ聖堂までのポルティコ（アーケード）を歩ききったんです。

G:頂上に辿りついた時は、すごく満足したね！

R:ファビオにガブリエーレ、どうもありがとう！では次の部屋に行きましょう！

R:さて次は私とチームメイトのシモーネ・カニッツェロの部屋にいます。彼は FISPIC の柔道代表の先駆者の一人で、彼とおしゃべりできてとても嬉しいです。こんにちはシモーネ

S:こんにちはロッビ！

R:調子はどう？

S:とってもいいよ。

R:君について聞かせてくれる？

S:僕はシモーネ・カニッツアロ、23歳です。5歳から柔道をやっています。アルビノのために生まれつきの弱視です。数年前からパラリンピック代表アスリートをつとめていて、ジェノバで開催された Under 21 のヨーロッパ選手権と、2015年にハンガリーのブタペストで行なわれた Under 21 の世界選手権に優勝して、今はパンデミックで2021年に延期になっている、パラリンピック東京大会2020への出場資格を得るために闘っています。

R:すばらしいね！

S:ありがとうございます。

R:柔道を始めたきっかけは？

S:偶然なんだ、父がラグビー選手で腕にけがをして、リハビリのためにジムに行ったんだけど、たまたまそこには小さな柔道の道場があったんです。僕は柔道を始めて畳に上がってからは、もう降りたことはありませんでした。

R:規程の年齢になった時には、君はすぐに選手だった。

S:偶然柔道を始めてから、ずっと競技してきて、5、6歳の頃には闘争心について話していました。子供のための試合で始めは寝技、そして立ち技、でも真剣じゃありませんでした。パラリンピックナショナルチームの技術指導をしていた先生が僕を見て、もし君が成長したいなら道場を替えなさい、君はパラリンピックで闘える可能性があるとおっしゃったんです。その時つまり12、13歳から真剣に負荷をふやして、毎日トレーニングしてきました。

R:君のカテゴリーは?

S:73kg級、13歳からずっとこのカテゴリーです。

R:心に残っている試合について話してもらえますか?

S:2今日までそしてこれからもずっと心に残っているのは、2017年にジャノバで開催されたヨーロッパユース選手権です。ホームでつまり私たちの国で行なわれた、高いレベルの国際試合だからね。たくさんのスポーツのとてもいい大会でした。僕は調子の悪いところから自分の力よりいい結果を出して、両親と家族、それから先生の前で勝つことができました。だから決して忘れないで賞。

R:どんな技で勝ったか覚えている?

S:決勝戦は特異な技のひとつ、内までした。

R:すばらしい。

S:東京パラに出場できたらいいと思うし、このムーブメントが大きくなっていて欲しいです。柔道に限らずスポーツをすることはとても大切だから。とりわけ困難を抱えている私達、実は困難ではなくてアドバンテージかも知れないけど、とにかく晴らしを持って楽しむ、生活に目標を持つのは大切です。

R:君が東京パラ代表に慣れるよう願っています。東京からお便りくださいね。

S:そうできますように。

R:a ありがとうございます。

S:皆さんありがとうございます。

R:さあ変わって3番目の部屋、FISPIC 柔道代表の女性たち、ミケーラ・ペッリとアジア・ジョルダーノです。チャオ!

M/A:チャオ!

R:ではさっそくミケーラ・ペッリからはじめましょう。ここにちはミケーラ。

M:ここにちは、ミケーラ・ペッリです。ブレシア県のガルドーネ・ヴァル・トロンピアに住んでいます。今は主婦だけど、もうすぐ仕事をします。柔道は8年くらい、その前は水泳と柔道をやりました。今年の冬はスキーはあまりできなかった。

R:チェスは?

M:いやあチェスは好きじゃない、私にチェスをさせようとしてる誰かさんはいるけど。

R:その僕たちが知ってる誰かに挨拶する?

M:ディエゴ・ポーリ! 笑

R:代表チームの古い知り合いだよねえ!! 笑

M:そう、私が柔道を始めたのは彼のおかげです。

R:へえ。

M:以前はキックボクシングをやっていて彼と知り合って、柔道をやってみないかと言われたの。柔道は特に視覚に障害のある人にとてもいいスポーツで、代表チームで目立って結果を出して、オリンピックに出られると言ったんです。

R:君は代表になって結果を出してるよね。よかつたら話してください。

M:私はカザフスタンではメダル取ったけれど、その後他の試合ではうまくいかなくて、ヨーロッパでの大会は5位でした。

R:おめでとう。

M:他は悲惨なの。

R:いや、クーベルタンは参加することに意義があると言っているよ。

M:だめだめ、勝たなくちゃ。

R:君はすばらしいメダルを持っている。柔道のどこが好きですか？

M:とにかく私が柔道が好きなのは、必ずしも相手をよく見えている必要はないコンタクトスポーツで、360度全身の筋肉でも相手を把握できます・・・・。

R:国際的な大会では白とブルーの柔道着が用いられるけど、ピンクは・・・・。

M:残念だけどないない！！

R:もしかしたらいいと思う？

M:ハイ！

R:ありがとうございます

R:次はアジア・ジョルダーノです。このプログラムにピッタリの名前、なぜって柔道は日本、つまりアジアで誕生したんですから。

A:アジア・ジョルダーノです。ジャノバに住んでいます。今トレントで認知心理学を勉強しているので、そうできるようになったら、トレントに移ります。柔道は性格には覚えていないけれど、9～10年やっています。過ぎてしまえば年月は速いですね。

R:速いね。

A:私は一般的にスポーツをするのが好きです。体と心の両方にいいと思っているので、アクティブな人出したいし、多くのことをしたいです。

R:一番心に残る柔道の場面や試合は？

A:すべての試合がポジティブとネガティブの両方を残すでしょう。負ければ次は3倍できると言えるし、勝てばさらに改善する必要があると言えるでしょう。最初の一歩に過ぎませんが、出場して良かった、ジェノバとフィンランドで粉われたヨーロッパユースがあります。

R:ジェノバは君のホームだね。

A:ええ、ワールドカップも大変大きな経験でした、若かったから。この世界への不安とそれより多くの好奇心があって、少しだけ特別な時試合をしたり競技会では、誰でも不安になるでしょ。

R:最後にこの柔道をしている同世代の視覚障害者に、何かアドバイスしてもらえますか？

A:私の意見ではこの鍛錬はパーフェクトです。柔道ではパートナーを認識する方法を知ることはとても重要なので、あなた自身とパートナーの両方の動きを知覚することで、軽快な動きが身に付きます。パートナーへの信頼は柔道の基本のひとつ、とにかく柔道は精神的にあなたをオープンにして、グループの一員にします。個人競技なので自分を人と比較してしまうのは事実ですが、とても寛容で、複雑なことはなしで健常者と実践できます。

とにかく視覚障害者にお勧めしたいですね、スポーツで楽しく過ごして、友人をつくることができるのですから、家にいて自分の障害のことを考えていたって仕方ないでしょ。もっと実りのある時間を過ごしましょうよ。

R:ありがとうございます！！拍手！！

R:ではパオロとファビアナに会いに行きましょう。チャオ！

P/F:チャオ！（こんにちは！）

R:では早速パオロ・カマンニから、僕はずっと前から彼を知ってるんです、ウンブリアで大会が開催された時、どうでしょパオロ？

P:ウン。

R:僕は彼の家に泊めてもらって、光栄にも家族の皆さんと知り合いになりました。パオロ、君について少し教えてくれる？

P:OK! 皆さんこんにちは、僕はパオロ・カマンニ 17歳、ウンブリア州ペルージャ県のベヴァーニャという小さな町に住んでいます。柔道は子供の頃からやっていて、その前には水泳をやっていました。今までずっとスポーツ全般大好き。僕は一日をいろいろやって過ごすのが好きだな、ピアノを弾くし、ボイスカウトもいいね。

R:スカウトの技術を知っているの?

P:何度も自分たちで設営してキャンプをしました。

R:じゃあいつか僕がロープを買うからさ、ガブリエーレをどこかに縛っちゃおうよ。 笑

P:喜んで!!

R:OK! 柔道はいつからやっているの?

P:9歳から。実はそれはある種の偶然で、それまで水泳をしていた町のプールがメンテナンスでクローズしちゃって、家族は僕に新しいスポーツをやってみるよう勧めたんだ。最初はフェンシングを仕向けられたんだけど、僕は柔道をやるっていうアイディアにかなり熱中した。好きなスポーツの柔道を続けていられることはとても嬉しいです。

R:君はすごく若いけど、すばらしいメダルを取っているよね。一番の思い出は?

P:フィンランドで開催されて僕が銀メダルを取った、ヨーロッパ・パラリンピック・ユースです。すべての代表チームとすべての人たちが集まって、とてもすばらしかった。皆の間にいい人間関係があって、おだやかな雰囲気とまとまりがあってとても楽しかった。そして前の質問だけど、僕がこれほど柔道を続ける理由ですよね。長年柔道への情熱を持ちづけているのは、柔道を通して友情を結んだり、自分の身のこなしや姿勢が、確実によくなっているからです。空間での自分の位置を改善すること、これはとても役立ちます。なぜなら非常に速い動きや回転があって、日常生活では普通ないこれらの違った動きがあるので、日常の俊敏さに役立つでしょう。

R:ありがとうございます。

P:ロベルト、そしてリスナーの皆さん、どうもありがとうございました。

R:MOTTO Podcast は好き?

P:もちろん! でも出るのはちょっとね・・・。 笑

R:ではファビアン・アマルフィと話に行きましょう。チャオ、ファビアン!

F:チャオ! 僕はファビアン・アマルフィ、ナポリ県の小さな町、サン・ジェンナーロ・ヴェスヴィアーノに住んでいます。

R:柔道はいつからやっているの?

F:3年、もしコロナヴィールスがなかったら4年なんだけれど・・・、3年ですね。

R:でもね、君はナショナルチームに来たじゃない? 満足している?

F:かなり重要な段階に達したと言えるんじゃないでしょうか。

R:なるほど、記憶に残っている試合はどの試合?

F:どの試合の後でも記憶に残るのはメンタルの向上でス。精神の向上や成長を実感できるのが柔道をする理由でスね。

R:柔道をしたいと思っている同世代の若者に、何かアドバイスしてもらえる?

F:柔道のように、どんなスポーツでも、僕たちと同じ問題を抱えている多くの若者が、自分に自身を付けるのを助けてくれるでしょう。

R:そうだね。

F:僕は瞑想のためのヨガなどを家でやったり、精神の向上のためにいつも行なっています。

R:すごいね、いろいろやってるんだね。さて最後に君は私たちの親愛なる友 マティルダ・ラウレアと同じスポーツクラブだからお願ひするんだけど、マティルダについて少し話してくれる?

F:マティルデは今までに会ったことがない、強い意志の力を持つ人です。彼女は視覚に加えて聴覚にも問題を抱えていて、彼女がどうやって笑顔で生活していられるのか、少なくとも今は僕にはわかりません。

F:うん

F:彼女は柔道もやっていて、これは重要でしょう。

R:君は理解してるよ。

R:ファビアン、どうもありがとうございます。

F:ありがとうございました。

R:現在の FISPIC 柔道の柱の一人、マティルデ・ラウレアの部屋でス。こんにちはマティルデ、あなたには私達に話してもらえることがたくさんあるでしょうけど、まずは短く自己紹介をお願いします。短くなんて難しいかな。

M:私はいくつかのスポーツをしているので多面的なアスリートですが、私にとっての主なスポーツは柔道です。3人の子供がいて、一人はまだ小さいの、もちろん夫もいますよ。笑

M:小さなころからずっとスポーツをしていて、特にマウンテンバイク、85年のロウビジョンの世界大会でタイトルを取りました。それから子供の頃セイリングを少し、若い時はサッカーをしたし、アーチェリーもしました。最近はフェンシング・乗馬・ショーダウンに行きますね。

R:フェンシングといえば、何回か前の出演者のマッシモ・メランダが、マティルデとフェンシングをすると言っていたけれど、そうなの?

M:そうそう、私が彼の胸を一撃したの。笑

R:君の剣で彼を突き刺した!笑 では私達は FISPIC の合宿中なわけですから、柔道に焦点をあてましょう。あなたはとてもとても多くの合宿と試合をしてきたけれど、それはいつからですか?

M:始めたのは15年前、当時3歳だった息子のマルコを連れて行って、少しづつ少しづつ、ムスカテッロ先生が・・・。

R:ああ、ムスカテッロ先生ね!先生こんにちは!!!笑

M:先生が、君はエネルギーな人だと説いてくれて、楽しみのために2か月かんトレーニングしてみました。FISPICについても知らなかったんです。私の初期の試合相手が健常者だったんだけど、2ヶ月ですぐ、私達のジムでは強い女の子に勝ったんです。その時から私は柔道の道を進み、先生はいつも手を差し伸べてくれました。8年前に右耳の聴力を失って、左側も軟調になってしまいました。

R:あなたは視覚と聴覚の2つの障害を負ってしまったけれど、でもスポーツはあきらめなかつた。

M:試合では補聴器をはずさないといけないので、すべてが消えてしまい、私は完全に聞こえなくなります。それで異動で生じる振動に合わせて進みます。もちろん聞こえないので不安です。8年前はすごくがんばらないとならなかつた。皆私にたくさん手を貸してくれました。

R:一番思い出に残るメダルはどれですか?柔道のね。

M:はい、ナポリで行なわれた最初のイタリア選手権、すばらしかつた!

R:ワオーッ!!

M:すばらしかつた。3人の女性が出場して、1人はアヴェッィーノの人で健常者、私はたいていは健常者と試合していたから。もう1人のフォッロニカの女性は私よりも若くて、でもとても大柄な健常者でした。引いたり引かれたりしてぐるぐる回って、ある時点では彼女をブロックして。彼女たちは私を止めた、私は聞こえていませんでした。補聴器無では、いつ試合が終わるのかわからんないです。肩に触れられて私は立ち上がって、私たちはハグし合いました。「やられたわ、やられたわ、あなたこんなに小柄なのに」。彼女らは私に補聴器をつけてくれました。・・・・

M:私は柔道が好きだけど、それは楽しんでいるからです。つ良いアドレナリンを与えてくれます、自分の障害の1歩先を行く必要があると言っています。とにかく私は人生で勝利を

納めました。3人の息子と夫に恵まれて、人生はバラの花ではなくたやすくはないけれど、やりとげたと言えるでしょう。若者たちへのメッセージです。

R:大切なことですね、お願ひします。たくさんの視覚障害の若者たちが閉じこもって何もしていないんです。

M:いつも若者たちに言います。世界は歩みを止めません、正しい手段で私達はどこにでも行くことができます。大切なのは頭を働かせること、進むのは体だけれど頭を使うのは重要です。

R:すばらしい言葉をありがとうございます、マティルデ・ラウリア。ナポリで会いましょう！

M:もちろん、皆さん、ありがとうございました。

R:さて次はシチリアのベネデッタ・スパムピナートの部屋でス。チャオ、ベネデッタ！

B:チャオ

R:元気？合宿には満足している？

B:ハイ、楽しんでます！

R:MOTTO Podcastのために自己紹介してください。

B:シチリアのベネデッタ・スパムピナートです。

R:どこの出身？

B:ラグーザ県に住んでいるけれどカタニーヤ出身でス。アルバノ山とポッツアッロの桟橋のあるラグーザ県に住んでいます。仕事は観光関係のレセプショニストで、人と接するのが好き。柔道は17年やっています。

R:柔道はどうして始めたの？

B:ある友達のためなの、水泳をやっていたんだけど・・・。

R:それ僕？

B:あ～っ、皆の前ではそう言おうかと思ったんだけどね。

R:いやいや、本当の話をしましょう。笑

B:私は水泳をしてたんだけど、視覚障害の友達が柔道の話をしていて、それをやろうって。ある時彼のお母さんが彼を連れて行けないから私と私のマンマが彼と一緒に先生のところにいって、それで私は柔道をやってみたってわけ。

R:なるほどなるほど。

B:その「なるほど」って声、すっごくセクシーだわ。笑

R:僕はセクシーじゃないよ、でもありがとうありがとうありがとう。笑

R:ところで柔道のどんなところが好き？

B:柔道は私達が一緒に行なえる、統合的スポーツのひとつで、視覚障害者同士で闘うのではなく、道場で見える人と闘うことで自分を試せて、そうすればあなたは彼らの一員でス。見える人がけがをするのと同様、見えない人も傷つくことを知るから。ムラーノのガラスみたいなことは起きないわ。

R:僕はベネツィア出身だよ。

R:一番の競技の思い出は？

B:ドイツでね。

R:うん。

B:私達は他の国の代表と二日間の乱取りをしたんだけど、48kg級で小柄な日本の女の子が一人いて、彼女とそのコーチは私に好意を持ってくれました。彼女らは日本語しか話さなくて、英語がよくわからないように感じました。レストランの女性とアメリカ人の女の子が彼女たちに「無効に行って。」と言ってもわからなくて「ありがとう、ありがとう」って言っていたの。それで私は感じたのだけど、微笑んだりハグしたりが結局はよかったです。翌日私たちは対戦しました、同じカテゴリーだから。私は勝ったけれど彼女が私を探していく

れて、「後で写真を撮りましょう」と言ってくれて嬉しかった。

・・・・・

R:最後に大切な質問をしたいのだけど。

B:どうぞ。

R:1人で家に閉じこもっている君の世代の女性たち、スポーツをしてみたいけど不安とか・・・彼らに特に柔道についておしえてあげて。

B:柔道はインテグレーションのスポーツです。他のスポーツは視覚障害者同士で行なうけれど柔道はそうではありません。家から出て楽しんで、友人を作つて、成績がよければ大会に出たらすばらしい経験と思い出ができます。柔道は申し分のないスポーツです、つまり道場に音楽を持って来ても退屈で、柔道は常に変化して知性を刺激してくれます。

R:お話をありがとうございます。もしブルーと白以外で好きな色の柔道着を選べるとしたら何色がいい?

B: そうねえ、グリーンかな。

R:明るいグリーン? それとも濃いグリーン?

B:濃いグリーン!!

F:インタビュアーでありナショナルチームのメンバーであるロベルト・ラキンに、私と、ベッドに寝転んでいる「ラジオくん」ことガブリエーレ・スコルソリーニ、そしてベネデッタ・スパンピナートがインタビューします。

R:それで君の名前は?

F:ファビオ・セラフィーニです。チャオ! ロベルト!

R:インタビューをありがとうございます。

F:はじめにどうして柔道を始めたのですか? 確か日本語を勉強したのですよね。

R:まったく別の話なんです。小さい頃からスポーツをしたかったのだけど、網膜色素変性症で視野が徐々に狭くなってくるために、1年制から様々なスポーツ活動から切り離されて、入会を希望したたくさんのスポーツクラブでも丁重に断られました。それで視力があった頃はアニメやマンガ、スポーツマンガで気晴らししていました。大学を卒業後結婚して息子が生まれるまで、ものすごくスポーツしたい気持ちはありませんでした。息子を最初の空手のレッスンに、私の盲導犬と一緒に連れて行った時、その場所がかなり狭くて、「親御さんは見学できません、一時間たつたら戻ってきてください。」と、先生に言われたんです。それで1頭目の盲導犬のベンニーと建物の中でトイレを探して歩き回って、「ドアを探して」て言ったら、ベンニーがトイレじゃなくて柔道場のドアに私を連れて行つちゃったんです。すごく恥ずかしかったけれど、先生が初めて私を受け入れてくれて、翌日試してみるように誘ってくれました。それが私のスポーツのストーリーの始まり。今はFISPICの代表であることを誇りです。

F:つまりは偶然か、神様からの招集か?

R:運命の兆し・・・・。

F:確かに!

F:ではあなたに質問したいというラジオくんに代わります、

R:そりや3時間くらいかかるかな。

B:質問は短かくね!

G:短く質問するよロッビ! あなたにとって柔道は身体にいいことがありましたか?

R:ガブリエーレ、すばらしい質問をありがとうございます! 柔道を始める前は坐ってばかりの生活で100kgに届きそうだったので、自分でも重くて動くのに苦労していましたね。柔道と出会って夢中になって、役1年で20kgは減ったと思います。それで73kgのカテゴリーまで来ました! とにかく柔道は単にフィジカルな問題だけでなく、私の内面的な成長に手を貸してくれました。他人をより尊重し、たくさんの人と共に過ごすこと、なぜなら私達視覚障害者

は時に自分たちだけの世界にとどまり、きっと他者とコンタクトをとるのが少し不安なので賞。一方スポーツを通じて知人をつくるのは、とてもインクルーシブな方法です。私はたくさんの人々と一緒にたくさんの人と知り合ったし、今でも現在進行形です。試合やトレーニングでたくさんの人々と一緒に多くの場所にも行きます。これだけでも私は喜びでいっぱいです。度々スポーツをする障害者は、「ああ、○○のチャンピオン！」「△△でチャンピオン」とか言われます、私は決してチャンピオンではありません。幸い柔道は健常者と一緒にトレーニングできるスポーツなので、みんなのようにみんなと一緒にスポーツをする普通の人であることを望みます。

F:次はベネデッタからの質問です。

R: いい質問をしてねベネデッタ！

B:一番の思い出の旅は？

R:もちろん日本を訪れた時、私が競技者になる前アマチュアだった頃、世田谷の小室こうじという先生の道場に行きました。彼は寝技のウロフェッショナルで、この技の世界的エキスパートです。彼は私を他の柔道家に紹介して日本語で言いました。「今日はイタリアから来た目の不自由なお客様がいらっしゃいます。しかしこれは全く妨げにはなりません。彼を皆さん一人として遇し手を貸してください。闘う時も皆の一人として躊躇しないでください。」私の人生で日本での乱取りを思うに、私と小室先生と一緒にいた青年、彼は3分で30回の最速で最大の一本を私からとりました。彼は私の肩をたたいて「これはほんの始めにすぎません、柔道の道を進めば、あなたは更に上達します。」と言いました。それで私は競技に進むことを決め・・・。

B:いい話ねえ。

R:・・・夏8月にイタリアに戻った後、先生に競技力をつけたいと話して、トレーニングを始めました。数ヶ月しかなかったけれど、ジェノバで人生初めてのグランプリ、2017年のFISPICの大会で金メダルを取りました。これが競技の始まり。

F:つまり衝撃だった。

B:すばらしい経験ね。

R:そう、柔道から感動をいっぱいもらっています、君たちはどうかわからないけど、私はもらっています。

F:最初のFISPICグランプリ以外で、一番感動的だったのは？

R:一番最近参加した2019年10月のFISPIC柔道イタリア選手権、2度年続けての準優勝でした。競技の観点からは、たくさんの健常者と闘って、勝つこともできてよかったです。そしてあなたたちの多くと知り合いました、すでに知っていた多くの人たちと同じく、ファビオやガブリエーレ・・・。

B:悪い友達だね！

R:いやいやそんなことない！みんなスペシャルだよ。この合宿はますますスペシャル、君たち一人一人と・・・。

B:これ言うために私達おごったのよ。

R:どうやって君たちが僕におごったかは言いつこなし。だめだめ、うそそ！君たちはとってもいい若者たちだよ、君たちの魂の幸せを願ってる、ちょっと君たちのおじさんみたいだ。

B: おじいさんでしょ。 笑

R:話広がり過ぎ！ 笑

F:でも明らかに僕たちと話しているよね、昼食のアイだとか一緒に過ごしている時、この数日にはあった経験とか。

G: 家を出発したとこから。笑

R:h ハハハ、コロナやらの関係でヴェネツィアから直行の電車がすごく少なくて、ボローニャのガブリエーレ・スコルソリーニ、ラジオくんの家に泊めてもらつたんです。2人でボローニャの中心から白杖とナビの音声で歩いて、どれくらいの距離あつたかなあ。

G:う～ん、かなりあるよ。

R:10kmはないよね。それで正ルカ聖堂まで徒歩で来て世界で一番長い3.5kmのポルティコ(アーケード)を自分たちの足と白杖、そして私が円柱にぶつかって頭を打った甲斐あって、歩き通したんだ。頭は打ったけれどよかったです。これを聞いてくれている皆さん、ファンタスティックだから恐れずに世界を探索してください、楽しまなくちゃ！前にも言ったけど、聖堂の壁に手で触れて探索する触擦タイルを見つけましたよ。

F:さてあなたが先に僕たちにした質問、柔道をやってみたいけど不安がっている見えない人たちに励ましのメッセージをお願いします。

R:君たちへの長いインタビューを通して答えは様々だけど、スポーツをする理由はいつも、身体にと同様に精神にもいいこと、人脈を広げたり障害が造りだした中庭から少し外に出るのは良いことです。

私達が全盲だったり弱視だったりするのは事実ですが、でも私を信じて、多くの限界を柔道で乗り越えていると言えば十分でしょう。道場に規てみて、私やガブリエーレやベネデッタに会いに来てくださいね。多くの町で柔道は誰も拒みません、保証しますよ。

B:そうです。

R:そうでしょベネデッタ。

B:同意！

ガブリエーレ、ファビオ？

F/G:その通り。

G:皆さん柔道をしに来てね、愉快なロベルトと柔道を経験してみて、本当に楽しいですよ。

R:今回仲間たちとのこのすてきな番組を実現させてくださったFISPICに感謝いたします。それでは皆さん、また来週金曜日に！！！

B/F/G:チャオ！！！